

平成 31 年度 港区立麻布幼稚園経営計画

港区立麻布幼稚園
園長 藤田 智子

1 教育目標

- げんきな子
- やさしい子
- かんがえる子

○げんきな子

『遊びを通して健康な心身を育む』

- ・たくさん遊んで、心と体をたくさん動かす。
- ・自分の身の回りのことを自分ですることを通して基本的生活習慣を身に付ける。

○やさしい子

『“自分も大事、友達も大事” 温かな心情、人権意識の基盤を培う』

- ・自分の思いを十分に表す。
- ・相手の思いに気づき、思いやりをもって接する。

○かんがえる子

『自分で考え、自分の思いを表現する力を育む』

- ・主体的、意欲的に遊びや生活に取り組む。
- ・豊かな経験を通して、興味・関心の幅を広げる。

2 目指す幼稚園

港区立麻布幼稚園は、昭和 9 年に開園し、今年度創立 85 周年を迎える。平成 31 年 3 月に増築棟が竣工し、園庭も整備され、新しい環境の中で平成 31 年度を迎えた。今年度より 3 歳児学級が学級増となり、3 歳児 2 学級、4 歳児 1 学級、5 歳児 1 学級の 4 学級の幼稚園となった。3 歳児 2 学級は既存園舎の保育室で生活し、4 歳児と 5 歳児は増築棟の保育室で生活している。園児の生活の場に関わる工事が終了したことで、子どもたちが遊びを十分に楽しめる生活しやすい環境が整った。

港区教育ビジョンの基本理念「すべての人の学びを 支え つなぎ 生かす」の実現に向けて、「生涯を通じて夢と生きがいをもち、自ら学び、考え、行動し、未来を創造する人」を目指し、麻布幼稚園が、遊びを通して心身の調和のとれた発達の基礎を培う学びの場であり、多くの人との関わりや体験活動などを通して豊かな人間性を育む場であり、安心して自分の力を発揮できる場であるよう今年度も取り組みを進めていく。「安心・安全な幼稚園」「子どもたちが主体的に環境に関わり、心身共に豊かに育つ幼稚園」「教員同士が学び合い、高め合える幼稚園」「家庭・地域の信頼・協力のもと、子どもたちの成長を支える幼稚園」を経営の視点とし、子どもたちが毎日幼稚園で遊べるのを楽しみに登園し、主体的、意欲的に活動に取り組むことのできる幼稚園を目指し、教育活動を推進する。

3 中期的経営目標と方策（平成 31 年度～令和 3 年度）

(1) 3 年保育 3 学年 6 学級体制の構築

今年度より令和 3 年度まで毎年 1 学級ずつ増加し、令和 3 年度には、3 歳児 2 学級、4 歳児 2 学級、5 歳児 2 学級の計 6 学級となる予定である。3 年間を見通し、6 学級体制の園経営を軌道に乗せていく。

(2) 施設・設備の有効活用

令和 3 年度には、全ての保育室を使って教育活動が展開されることとなる。それぞれの学級の幼児の動線を踏まえ、安全かつ教育内容の充実に向けた施設・設備の使い方を工夫する。

園庭の樹木や草花などの自然環境や、園庭や屋上の花壇を活用し、園児の生活を豊かにする環境作りを工夫する。

(3) 学び合い高め合う教職員の組織づくり

学級増に伴い、令和 3 年度まで毎年教員の配置が増える。それぞれの教員の経験年数や良さを生かしながら、学び合い高め合う組織づくりに努める。教職員の連携を深め、チームとして動ける人間関係を構築する。

(4) 地域への情報発信の工夫

本園の教育姿勢や教育方針、具体的な教育内容の発信方法を工夫し、地域や保護者の理解・協力を得ながら、共に麻布幼稚園の子どもたちを育てていく体制づくりをする。子どもたちが、地域の愛情、地域で育つ良さを感じながら成長できるようにする。

4 短期的経営目標と具体的方策

(1) 目指す幼稚園に向けて

①安心・安全な幼稚園

○子どもたちの心身の健やかな成長・発達を常に第一に考え、安心・安全な環境作りを目指す。

〔方策〕

・円滑な教育活動の実施に向けて園内の環境を整え、幼児が安全で心地良い環境の中で過ごせるようにする。施設・設備の安全点検を日々行う意識を教職員全体に広め、幼児をはじめ園内の全ての人々が安全・安心に生活できるようにする。

・集団生活におけるきまりや約束など、幼児が安全に生活をするために必要なことを身に付け、意識して行動できるようにする。

・緊急災害時に迅速に対応できるよう、様々な想定のもと、計画的に防犯・防災訓練を実施する。幼児の安全への意識、教職員の危機管理意識を高めるとともに、関係諸機関と連携を図り、幼児の安全確保に努める。

②子どもたちが主体的に環境に関わり、心身共に豊かに育つ幼稚園

○子どもたちが毎日幼稚園に来ることを楽しみにし、主体的、意欲的に活動できる幼稚園を目指す。

○遊びの中での幅広い経験を通して、幼児一人ひとりの能力や可能性を伸ばすことを目指す。

〔方策〕

・幼稚園教育は、幼児期の特性を踏まえ環境を通して行うものであることを基本とすることを踏まえ、幼児の生活の場である保育室を始めプレイルームや園庭などの園内の環境を、発達段階、

時期に即して整え、幼児が意欲的かつ主体的に園生活を送ることができるようにする。また、教職員も環境であることをしっかり意識しながら、幼児理解に努め、幼児との信頼関係を築き、発達に即した教育活動を展開する中で一人ひとりの幼児の能力や可能性を十分に伸ばすよう努める。言葉遣い、行動など、教職員が子どもたちのよきモデルとなるよう心掛ける。

- ・友達との遊びの中で、一人ひとりの幼児が自分の思いを十分に発揮できるようにしながら、友達には友達の思いがあることにも気付き、受け入れて遊ぶ楽しさが感じられるようにしていく。その中で、自分も相手も大切に作る気持ちを育てていく。また、集団生活をする中で、きまりを守って生活する大切さを感じられるようにし、規範意識の芽生えを培う。
- ・一人ひとりの幼児の経験の幅を広げ、豊かな園生活を展開していくことができるよう、幅広い経験ができるよう見通しをもって教育計画を立て、苦手なことも“やってみよう・できた・楽しい”と思えるように、得意なことは“さらにやってみよう”と思えるようにしていく。やらせるのではなく、幼児が自らやってみたいと思えるような指導の工夫を常に心掛ける。PDCAサイクルに基づき、保育改善を行う。
- ・「オリンピック・パラリンピック教育推進事業」「食育活動」「エコ活動」などの体験的な活動の機会を活用し、興味や経験の幅を広げるとともに、継続して自ら取り組む意識につなげていく。

③教員同士が学び合い、高め合える幼稚園

○園の目標に向けて、それぞれの教員が自分の力を発揮し、協力し合える幼稚園作りを目指す。

○教員がお互いの良さを認めながら、学び合い高め合える幼稚園づくりを目指す。

[方策]

- ・園務分掌の遂行にあたり、それぞれの教員の役割を明確にし、教員一人ひとりが園組織の一員としての自覚をもちながら、組織的・計画的に教育活動が進められるようにする。
- ・各教職員の得意分野やもち味を発揮できる場を作り、互いの良さを認め合いながら研鑽を図ることができるようにする。新規採用教員、中堅教員、産休代替教員など様々な教員がいる良さを生かし、経験年数に関わらず、学び合う意識をもちながら相互に能力を高められるようにする。
- ・それぞれの教員が自己課題を意識しながら、不得手なことでも主体的に学ぶ意欲をもち、スキルアップを図れるようにする。
- ・OJTの組織的な推進を通して、全教員の指導力を向上させる。

④家庭・地域の信頼・協力のもと、子どもたちの成長を支える幼稚園

○園の教育について積極的に発信し、家庭や地域と育てたい幼児像を共有し、家庭・地域の信頼・協力のもと共に子育てをする幼稚園を目指す。

○六本木アカデミーにおける連携を推進し、学びの連続性を踏まえた教育活動を展開する。

[方策]

- ・保護者会や学級懇談会、降園時の保護者との話の中で、園での幼児の活動の様子や教職員の接し方、成長の姿を具体的に知らせ、幼児の具体的な姿を通して発達段階を理解したり成長を実感したりできるようにし、家庭での子育てとの連続性が意識できるようにしていく。
- ・保育参観やホームページ、園便り、学級便り等で教育実践を紹介し、幼児の姿を通して麻布幼稚園の教育の良さを家庭・地域に具体的に伝える。

- ・特別な配慮を要する幼児に対しては、家庭との連携を図り幼児にとって必要な支援を明らかにするとともに、関係諸機関と連携を図りながら園の全教職員の共通理解のもと合理的配慮および適切な援助を行っていく。
- ・幼児の保護者の子育ての支援として、サポート保育を円滑に進める。
- ・地域の幼児教育支援センターとしての役割を担い、保護者が子育ての不安を教師に気軽に相談できるようにし、人とのつながりを大切にしながら、また訪れたいくなる幼稚園を目指す。未就園児交流会では、参加幼児の発達や興味に合わせて活動内容を工夫するとともに、在園児の活動の様子も紹介しながら麻布幼稚園の教育に触れる機会とし、次年度の入園希望につなげていく。
- ・六本木アカデミーにおける連携ができる良さを生かし、共通の研究主題「主体的・対話的で深い学びができる子供の育成～子供たちの資質・能力を引き出す指導～」に向けて、学びの連続性を踏まえた教育活動を計画する。また、昨年度に引き続き、小学校への接続を踏まえた麻布小学校との教育内容のつながりについての話し合いも行い、教育実践につなげる。「家庭で大切にしたいことハンドブック」「5歳児ポイント集」「港区小学校入学前カリキュラム」を活用する。

(2) 研究・研修について

- 研究主題「主体的で対話的な姿を引き出すための環境の工夫」
 - ・研究内容の明確化と見通しをもち、保育を通じた研究の実践に積極的に取り組む。
 - ・年間を通して幼児理解、研究保育、事例検討を行い、保育の内容、教師の援助、評価の工夫を行うとともに幼児の変容をとらえた実証的な研究を行う。
 - ・幼児の実態を踏まえ、発達に即した指導計画の見直し・作成をする。
 - ・平成30年度施行の幼稚園教育要領についてさらなる学びを深める。

(3) 服務について

- 公務員としての自覚のもと、出勤・退勤・職務専念・所在の明確・届出の適正等、服務の基本的な事項を遵守する。
- 専門職として自ら資質向上に努め、研究・研修会や指導の実践及び分掌業務遂行上のアイデア、成功・失敗例等、互いに公開したり取り入れたりしながら、相互啓発に努める。
- 言動及び服装等には十分に気を配り、公私にわたり園及び職員としての信用を失うことのないようにする。
- 分掌業務の遂行にあたっては、「誠実・正確・迅速」を目指す。不明確なことがある場合には適当に処理することなく、確かめ合い、また法的な根拠を明らかにして処理する。
- 公費、私費を問わず、金銭の取扱いには十分注意し、適正な執行に努める。
- それぞれの教員が、効率的な仕事の進め方について考え、自らの働き方の見直しをする中で、働き方への意識改革を行う。それぞれの教員が自らのスケジュールで週に一日はノー残業デーを実施し、ライフ・ワーク・バランスを図る。
- 報告・連絡・相談をしっかりと行い、全教職員がチームとしての意識をもちながら協力して、明るく活気に満ちた麻布幼稚園を目指す。